

ぼくたち わたしたちが
あんなに くらせる いえがほしい
こどもたちのねがい

社会福祉法人 中央有鄰学院広報誌

発行者: 社会福祉法人中央有鄰学院
〒459-8001 名古屋市緑区大高町胴之腰20-1
Tel 052-621-2441 Fax 052-622-5509
E-mail: yuurin@mtf.biglobe.ne.jp
(H21年1月～H22年3月は仮舎)
仮事務所(元緑市民病院看護師寮)
〒458-0037 名古屋市緑区潮見が丘1丁目48
Tel 052-896-6183 Fax 052-896-6152



ゆうりんだより



子どもの居場所づくりに 取り組んで

施設長 二村 繁美

“僕たち私たちが安心して暮らせる家がほしい”と声をあげ4年目。積年の夢が叶い、現在建設中です。当学院の建て替えには、社会的な支援の問題と学院固有の困難な問題があり、難しいことでしたが、多くの皆様のご支援、ご指導を頂きこぎつけるに至りました。感謝申し上げます。

この一年、職員・子どもと共に、必至に旧舎の片づけ、引越、仮舎作りに追われ歩んできました。子ども達は、気持ちの上で「自分の家づくり」に色々なかたちで取り組んでおり、一生懸命手伝ってくれています。

現在、建設工事は順調に進み、ちょうど半分の工程が済みました。一同、完成が楽しみです。待ち遠しい日々です。

この設計には、今まで積み上げられた「児童養護施設中央有鄰学院」の課題を少しでも解決していきたいと多くの願いや期待が込められました。それは、次の点です。

一、苦勞を背負う子どもらが、赤ちゃんから自立するまで安心して暮らせる場所にしたい。笑いと涙が溢れる家庭に近い場にしたい。

一、生まれて苦勞の多い子ども達が、愛情溢れる各種専門職員

と共に育ち直りをする個別ケアのできる場にしたい。

一、子どもを育てる職員が、優しい気持ちで子育てができる場所にしたい。

一、お世話になっている地域の皆様やボランティアの皆様と共に生活できる楽しい場所にする。

一、利用する保護者の皆様が親の務めを果たし喜びあえる支援の場にする。

一、受け手のない子どもを里親さんに安全に橋渡しをする場づくり。

一、育った子どもがいつでも懐かしく帰ってこられる“実家”にすること。

どの課題も現制度のもとでの実現は、職員集団の実践の積み重ねが必要ですが、すぐにはできません。施設整備という「環境」づくりを機にスタートさせたいと考えています。

ご挨拶が遅れましたが、私は昨年度から施設長の任を務めさせて頂いております。当学院で25年お世話になってきました。困難を背負う子ども達に寄り添うには未熟な点が多々ありますが、失敗も多く積み重ねてきました。今、ご恩返しで役に立てばと当学院が再生する過渡期の先頭に立っております。皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



仮舎の外観は白い建物。しかし、壁はボロボロ、草も生えていて年月も感じます。部屋の中は沢山の荷物があり、皆で力を合わせてゼロからの生活づくりが始まりました。



中央有鄰学院は、来年度新しい建物に生まれ変わりますが、それに伴う「引越し」という大きなプロジェクトには、子ども達や職員だけでなく、卒院生や沢山のボランティアの方のご協力を頂きました。本当にありがとうございました。そして、今まで長い間子ども達を見守ってくれた旧舎にもありがとうございました。



ボランティアの一步の会さん、大高学区内の民生委員さん他多数の方に、ベランダのペンキ塗り、カーテンの縫い合わせやふすま張り等沢山ご協力頂きました。

仮舎準備にあたって

ボランティアのみなさん
ありがとうございます



三段ボックスなど必要なものは、自分たちで作りました。

職員に教えてもらいながら丁寧に段ボールに入れていきます。



真鍋さん(大高町)のトラックで大きな荷物を運び入れました。

事務所として、旧緑市民病院看護士寮をかりることになりました。



愛知教育大学のボランティアSOBAさんと一緒にピカピカに掃除をしました。



熱田ローターアクトクラブの方には引越しのお手伝いをして頂き、子ども達と一緒に引越しを盛り上げて頂きました。



引越しボランティア一覧

・真鍋 哲 様
・一步の会の皆様
・熱田ローターアクトクラブの皆様
・りん会の皆様
・愛知教育大SOBAの皆様
・フリップモリスジャパン(株)
・コーポレートフェアーズの皆様
・真鍋工業社員の皆様
・名波 容子 様
・服部 朗代 様
・紙谷 祝子 様
・山田 尚美 様
・小野 智香 様
・楠田 彩子 様
・中根 慶子 様
・新海 由貴 様
卒院生の方を含め、その他多数の方に協力頂きました。ありがとうございました。



アスナル金山会場にて

につぼんどまん中祭り チームの一員 地域の一員として

今年も華調舞月の皆さんと一緒に、につぼんど真ん中祭りに参加しました。
これまで地域の活動に参加するという経験がなかった子ども達が殆どで、初めは皆さんとなかなか打ち解けることができませんでしたが、様々な経験を通して、チームの一員として積極的に参加できるようになってきました。会員の皆さんも、自分の子どもと同じように学院の子ども達に接して下さっています。
時には優しく、時には厳しく見守って下さり、子ども達も安心して参加できています。この活動をきっかけに、子ども達が地域の一員として、さらに活動の場を広げられるよう願っています。
(石田)



忘れられない磯の香り：夏休みの思い出



干物作りに磯探検：
初めての篠島は
初めての体験が盛り沢山



篠島での海水浴は、きれいな海と砂浜にみんな素直に喜びを感じていました。船で海を渡ってきたことがより一層子ども達の気分を高揚させたこともあるでしょう。海水浴の後に行った磯探検では、ヤドカリやヒトデなど磯の生物を実際の海で見られる良い機会となり、翌日には、みんなで必死になって採った貝等を食べることができたので、この磯探検はとても好評でした。

干物作りでは、地元の人々の指導により包丁を使って実際に魚をさばく体験をしました。「内臓が出てきたよー！」「気持ちわるーい」と言いながらも皆一生懸命頑張りました。帰ってきてから自分たちでさばいた魚を食べながら、「この魚は上手くさばけてないねえ」「どうやって干したんだろう？」など篠島での体験を振り返りながら皆で沢山の話ができました。

その他にも散歩で裏通りを歩いたり、神社や船を見たりと島の環境や歴史をよく知ることができた機会も得られましたので、泳ぐだけでなく、自分達が「篠島」という島に來ているということを十分に感じ取ることができた貴重な体験となりました。子ども達は、初めての篠島で、そんな島の思い出を沢山持ち帰ることができたようです。

仮舎鳴海寮での生活

生活の場が大舎から仮舎（小舎）へ変わり、子ども達の生活も大きく変わりました。

3LDKに住む中央有鄰学院403号室の我が家には、今年の4月から念願の専門学生となった長女、中一の次女、小四の三女、小三の長男、小一の次男、年中の四女の6人の子どもがいます。仲良く遊んでいたかと思えば、数分後には大喧嘩。笑い声、泣く声、なだめる声、我が家は毎日賑やかです。

仮舎での生活がスタートして約半年。「いつてきます」「いつてらっしゃい」「ただいま」「おかえり」と、何気ない挨拶が部屋の玄関先で繰り広げられたり、ほかほかご飯が食べられるようになったりと大高町の旧大舎では味わえなかった一般家庭での当り前の出来事に、大人も子どもも喜びを感じながら生活しています。一人ひとりの役割も増え、受け身だった生活から子ども達が主体的に生活する場になりつつあります。大人と子どもがより密接な時間を持つことができるようになったことで、

子どもに落ち着きが見られるようになったり、お手伝いをするようになったり、年長児が年少児の面倒をみるようになったりと良い面が見られる一方、狭い空間では他児から受けるストレスも大きく、多くは年長児から年少児への威圧的な態度となって表れています。一人になれる空間や時間を提供するとともに、年少児の言動を理解すること、相手と自分との相違を受け入れようと努めること、相手を思いやることが我が家の今後の課題です。

職員にとってはハードな勤務体制となりましたが、子どもとより個別に関わりを持てるようになったことで子どもとの関係も深まり、大きな喜びと充実感を感じています。

子ども達が、建物完成後の新しい「我が家」で、心から安心してのびのびと成長できることを願っております。

（坂野）



（右）皆で協力して夕食の準備をします。
（左）ダイニングスペースは皆が集まる憩いの場所です。

スポーツ大会 結果報告



※スポーツ大会は、名古屋市内の児童養護施設対抗の野球とソフトボールの大会です。

ソフトボールの一回戦は、打線が大爆発し見事勝利を収めたものの、二回戦には先制点を取られたことから雰囲気が悪くなってしまう。そのまま大差で負けてしまいました。野球は、初戦から優勝チームとの対戦だったこともあり、善戦しながらも一回戦での敗戦となりました。

しかし、最後に審判の方から「去年と比べると見違えるほど良いチームになったね。」とお褒めの言葉を頂きましたので一生懸命頑張ってきたかいがあったと思います。来年は、ソフトも野球もさらに良いチームになれるようチームワークを良くしていきたいですね。

平成二十年度決算及び事業報告

永年の懸案であった施設整備が具体化し、子ども達も職員も法人全体で「子ども達が安心して暮らせる『こんな家』がほしい」をテーマに取り組みました。仮舎として古い4階建ての共同住宅を借用し、建物の掃除、手入れ、引っ越しと大忙しの1年でした。

二十年度の主な事業

- ①子ども達が生活する仮舎への引越し
- ②古い建物の解体工事
- ③新しい建物の地鎮祭
- ④施設整備のための「特別会計」の設置

寄せられた苦情とその対処

子ども達、家族、地域住民から法人や施設に対して何件かの苦情が寄せられました。
内容は、子ども達の処遇や生活に関わるものを中心でした。それぞれ苦情に対しては第三者委員を交えた苦情処理委員会で対応し、理解を求めました。



施設整備について

指定寄附で1021万円を受領しました。施設の引当金、法人本部の積立金も特別会計に移行して、新しい建物に全力を注ぎます。

2008年度 事業活動収支決算書

単位:千円

		勘定科目	法人本部	児童養護施設	特別会計	合計
事業活動収支の部	収入	利用料	55	0	0	55
		措置費	0	174,366	0	174,366
		運営費	0	7,972	0	7,972
		経常経費補助金	0	1,485	0	1,485
		寄付金	0	2,927	0	2,927
		雑収入	0	4,709	0	4,709
		引当金戻入	0	1,794	0	1,794
	国庫補助金等特別積立金取崩額		0	31,171	0	31,171
	収入計		55	224,427	0	224,483
	支出	人件費	960	126,359	0	127,319
		事務費	216	10,873	48,617	59,707
		事業費	0	35,964	0	35,964
		減価償却費	0	3,924	0	3,924
支出計		1,176	177,120	48,617	226,914	
事業外収支の部	収入	受取利息配当金	21	157	22	202
		経理区分間繰入金	180	0	65,473	65,654
	収入計		202	157	65,496	65,856
	支出	経理区分間繰入金	6,823	58,807	22	65,654
		支出計	6,823	58,807	22	65,654
特別収支の計	収入	施設整備等補助金	0	0	25,236	25,236
		施設整備等寄付金	2,716	0	7,500	10,216
		固定資産売却益	0	0	0	0
	収入計		2,716	0	32,736	35,452
	支出	基本金組入額	0	0	0	0
		固定資産売却損	0	52,031	0	52,031
		支出計	0	52,031	0	52,031
繰越活動収支差額の部	当期末繰越活動収支差額		641	-75,698	49,591	-25,465
	その他積立金取崩額○		7,823	58,650	0	66,473
	その他積立金積立額○		2716	10,000	0	12,716
	次期繰越活動収支差額		5,748	-27,048	49,591	28,291

貸借対照表

2009,3,31

単位:千円

資産の部

勘定科目	金額
流動資産	46,864
基本財産	171,085
その他の固定資産	30,859
計	248,808

負債の部

流動負債	21,975
固定負債	5,196
計	27,171

純資産の部

基本金	180,629
その他積立金	12,716
次期繰越活動収支差額	28,292
計	221,637

※千円未満四捨五入で表示しており、縦計横計は必ずしもあっていません。



子ども達への応援をお願いします

＜受付・事務局＞植田・安達

